

2011年度(2012年3月期) 第2四半期決算説明会



2011年10月31日

大正製薬ホールディングス株式会社
常務取締役 酒井 明人

今回の決算発表について

- 本日発表した第2四半期決算は、「大正製薬株式会社」の2011年4-9月の決算内容です。
- 通期予想は、2011年10月3日に発足した「大正製薬ホールディングス株式会社」の業績予想となります。

2011年度第2四半期決算：概要



(億円)

	2010年度 2Q累計	2011年度 2Q累計	前年同期比 増減	
売上高	1,330	1,332	+1	+0.1%
セルフメディケーション事業	854	842	▲13	▲1.5%
医薬事業	476	490	+14	+2.9%
営業利益	246	203	▲43	▲17.6%
経常利益	268	235	▲34	▲12.6%
四半期純利益	162	128	▲34	▲21.1%

(ご参考) 10月12日発表の修正予想:

売上高 1,325億円、営業利益 200億円、経常利益 225億円、当期純利益 115億円

注:金額は億円未満四捨五入

2011年度第2四半期の概況(1)



• セルフメディケーション事業(国内)

– 国内OTC医薬品等

- リポビタンシリーズ: 前年の猛暑の反動や台風・多雨などの影響を受け、計画に未達、前年同期比マイナス
- パブロンシリーズ、リアップシリーズはほぼ計画通り

– H&B関連

- リビタシリーズ: 計画に対して好調に推移

<ご参考:市場の状況>

– OTC医薬品市場

2011年度4-9月: 前年同期比▲3.6%

(インテージSDIデータ、売価額ベース)

2011年度第2四半期 主要ブランド売上高



(億円)

	2011年度 2Q累計	前年同期比 増減	
リポビタンシリーズ	391	▲17	▲4.2%
パブロンシリーズ	101	+1	+1.4%
リアップシリーズ	71	▲3	▲4.2%
ナロンシリーズ	20	▲2	▲9.5%
胃腸薬シリーズ	20	▲0	▲0.9%
コーラックシリーズ	19	0	+1.1%
リビタシリーズ	19	+2	+11.3%

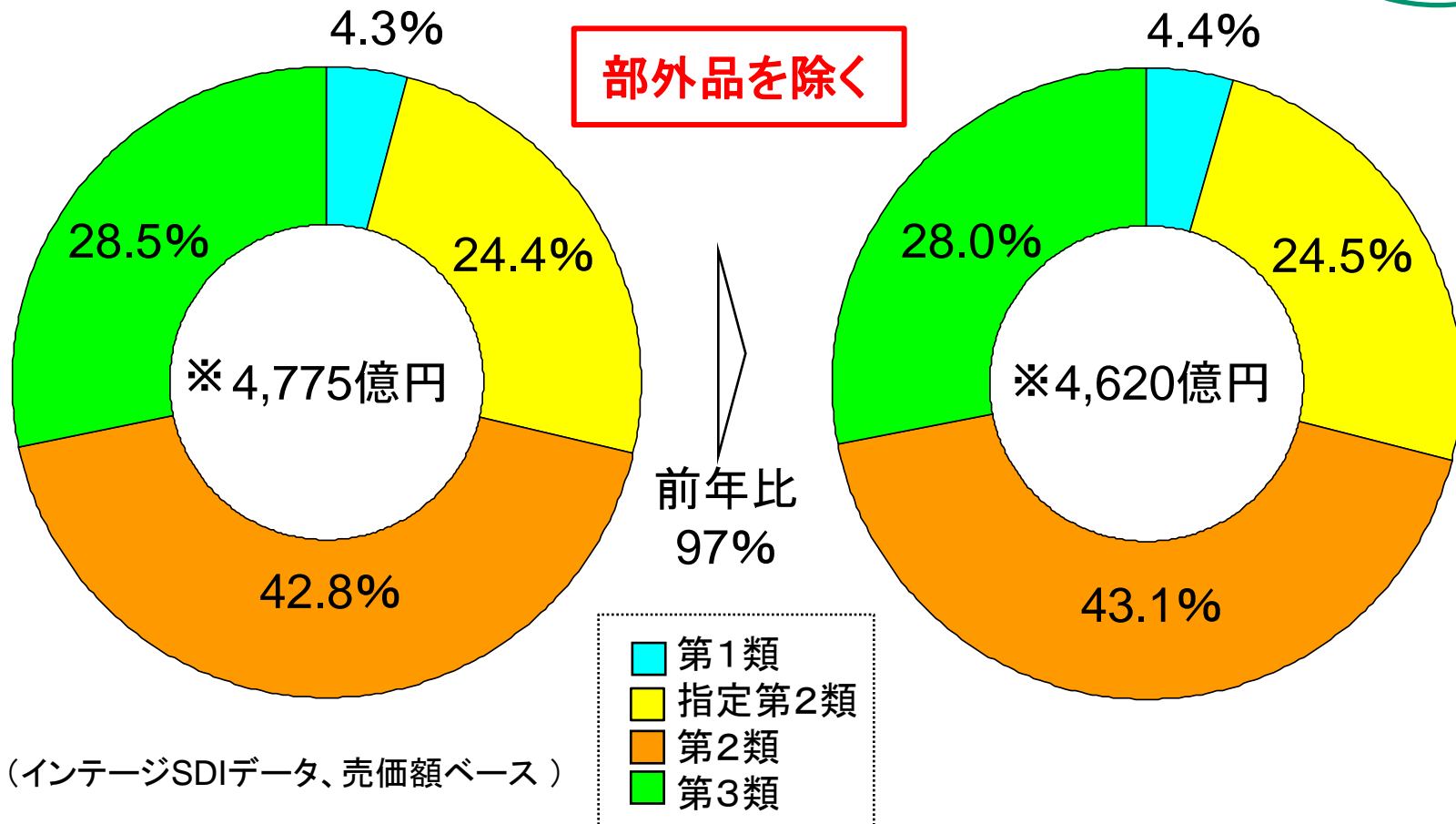
注:金額は億円未満四捨五入



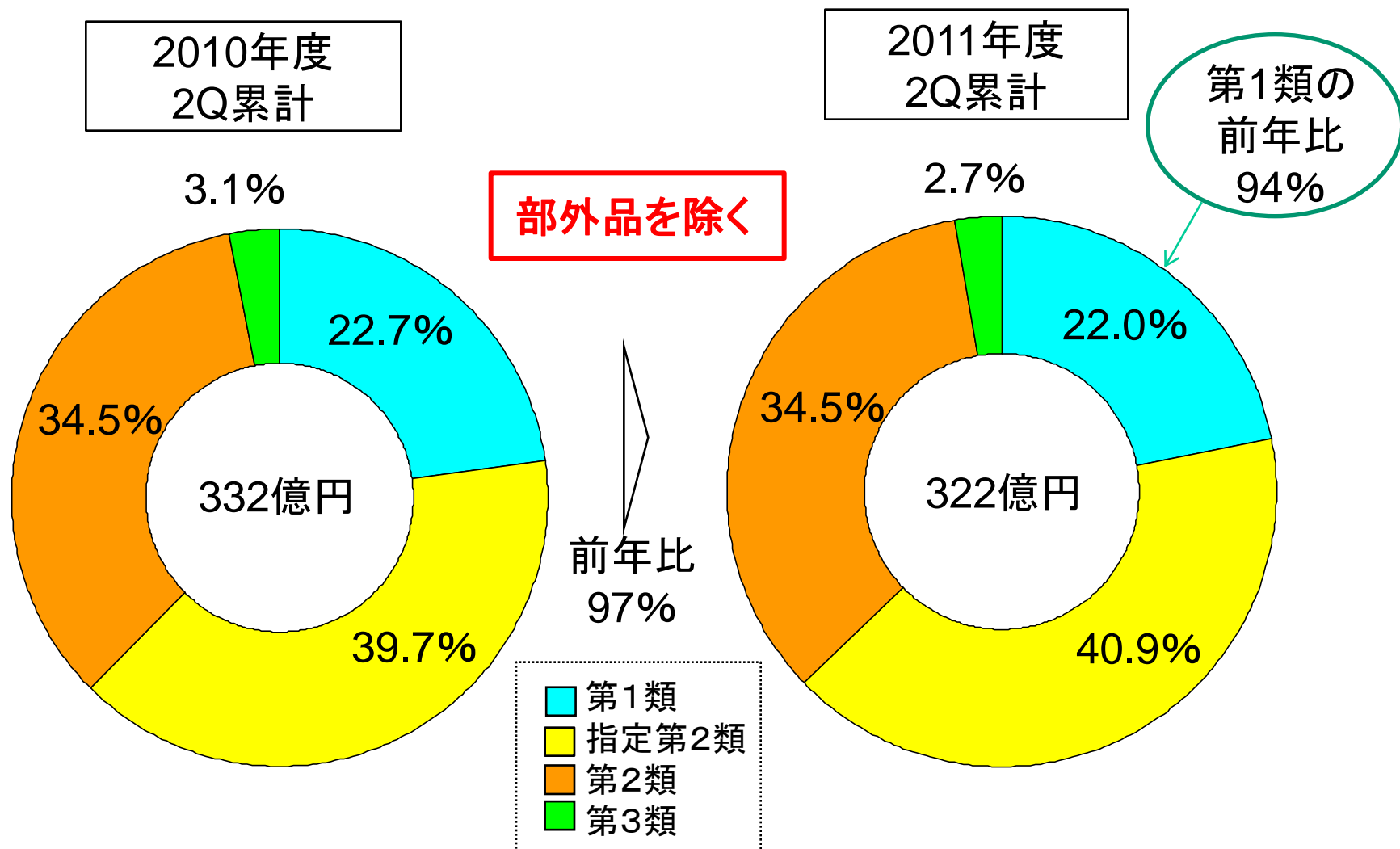
OTC医薬品分類別構成比

国内OTC医薬品市場における構成比 ※ 分類不明分は除く
(2010年度4-9月) (2011年度4-9月)

第1類の
前年比
99%



当社のOTC医薬品分類別売上構成比



2011年度第2四半期の概況(2)



- アジアOTC医薬品事業は順調に推移
 - 第2四半期累計実績：
売上高27億円、営業利益15億円
のれん等償却10億円で営業利益ベースは5億円
- 順調に推移した要因
 - 引き続き、販促活動を積極的に展開
 - Tempra(小児用解熱鎮痛剤)、
Counterpain(外用消炎鎮痛剤)ともに伸長
 - タイ、インドネシア市場を中心に好調

2011年度第2四半期の概況(3)



• 医薬事業

– 大正富山医薬品:

4月に震災の影響を受けたが、その後回復基調計画には未達だが、前年同期比でプラスを確保

- ゾシン、ジェニナック、オゼックス細粒小児用が計画を上回る
- クラリス、エディロールは計画に未達
- 大正富山医薬品の抗菌薬市場*シェアは16.9%でトップ
(* J01抗菌薬市場)

＜ご参考:市場の状況＞

- 医療用医薬品市場:前年同期比+6.5%
 - 当社の主力市場である抗菌薬市場は▲3.0%
(経口▲4.3%、注射▲1.3%)

(©2011 IMS ジャパン株式会社)

JPM 2010年・2011年(4月-9月)をもとに作成, 無断転載禁止)

大正富山医薬品：2011年度第2四半期 主要製品売上高



(億円)

	2011年度 2Q累計	前年同期比 増減	
クラリス	88	▲8	▲8.7%
ゾシン	84	+13	+17.7%
パルクス	48	▲3	▲6.5%
ジェニナック	24	+1	+6.0%
オゼックス	21	+4	+21.2%
ロルカム	17	▲1	▲4.0%
エディロール	8	+8	—

注：金額は億円未満四捨五入

2011年度2Q : 売上高・利益の増減要因



(期初からの6ヶ月累計、前年同期比増減額)

<p>売上高 (+1億円)</p>	<p>セルフメディケーション事業 (▲13億円) (主な増減要因) 国内OTC ▲21億円 アジアOTC +5億円 リビタシリーズ +2億円</p>	<p>医薬事業 (+14億円) (主な増減要因) 大正富山医薬品 +5億円 中間製品等 +8億円</p>
<p>営業利益 (▲43億円)</p>	<p>売上総利益*: ▲10億円 (売上総利益率* 前年同期64.6%→当期63.8%) 販管費: +34億円 主な増減: 研究開発費 +14億円 販売促進費 +16億円 広告宣伝費 +9億円 システム関連 ▲4億円</p>	
<p>営業外損益: 持分法投資損益は13億円改善(前年同期▲13億円→当期0.4億円) 特別損益: 投資有価証券評価損など</p>		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後 注:金額は億円未満四捨五入

2011年度：通期業績予想



(億円)

	通期予 (新)	前期比増減		通期予 (旧)	予想 修正額
売上高	2,705	+19	+0.7%	2,740	▲35
セルフメディケーション事業	1,678	+6	+0.4%	1,713	▲35
医薬事業	1,027	+13	+1.2%	1,027	-
営業利益	365	▲76	▲17.2%	395	▲30
経常利益	420	▲121	▲22.3%	455	▲35
当期純利益	245	▲104	▲29.8%	280	▲35
EPS(円)	296.12	-	-	338.41	
(参考)					
大正富山医薬品売上高	910	+12	+1.4%	910	-

予=予想 注:金額は億円未満四捨五入

第3四半期以降の動向



• セルフメディケーション事業

- 国内OTC等：第2四半期までの状況を反映し、計画を下方修正
- アジアOTC：Hoe社買収分が損益に寄与引き続き、東南アジア市場における事業拡大に注力

• 医薬事業

- 感染症領域：好調な主力製品の計画を上方修正
- 炎症・免疫領域：感染症領域に並ぶ柱に育成
 - エディロールの採用施設数拡大に注力

2011年度：主要ブランド・製品売上高予想



(億円)

	2011年度 通期予・新	前期比 増減	2011年度 通期予・従来	前期比 増減	予想修正
リポビタンシリーズ	691	▲20	716	+5	▲25
パブロンシリーズ	259	+2	257	0	+2
リアップシリーズ	149	0	152	+3	▲3
ナロンシリーズ	42	▲4	43	▲3	▲1
胃腸薬シリーズ	43	0	43	0	0
コーラックシリーズ	39	0	40	+1	▲1
リビタシリーズ	40	+4	37	+1	+3
クラリス	211	▲18	220	▲9	▲9
ゾシン	170	+22	162	+14	+8
パルクス	95	▲7	100	▲2	▲5
ジェニナック	60	+15	50	+5	+10
オゼックス	46	+5	41	0	+5
エディロール	17	+17	34	+34	▲17

注：金額は億円未満四捨五入

アジアOTCについて



(億円)

	2010年度 通期	2011年度 2Q累計	2011年度 通期予想	前期比 増減
アジアOTC	47	27	67	+20
BMS社からの買収分	47	27	53	+6
Hoe社買収分	-	-	14	+14

- 売上高の見通しは足元の状況を反映して修正(+2億円)
- BMS社からの買収分:積極的な販促活動が寄与
- Hoe社買収分:業績への寄与は第3四半期以降
 貸借対照表は当期(9月)末より取り込み

(Hoe社決算は従来の1月期から12月期に変更、
2011年8月～12月分、5ヶ月分の損益を下期に取り込む予定)

2011年度通期予想：売上高・利益の増減要因



(前年同期比増減額)

<p>売上高 (+19億円)</p>	<p>セルフメディケーション事業 (+6億円) (主な増減要因) 国内OTC ▲20億円 アジアOTC +20億円 リビタシリーズ +4億円</p>	<p>医薬事業 (+13億円) (主な増減要因) 大正富山医薬品 +12億円</p>
<p>営業利益 (▲76億円)</p>	<p>売上総利益*: ▲5億円 (売上総利益率* 前年同期64.1%→当期63.5%) 販管費: +70億円 主な増減: 研究開発費 +13億円 販売促進費 +24億円 広告宣伝費 +15億円 システム関連 +5億円</p>	
<p>営業外損益: 持分法投資損益は前期比▲40億円 (2010年度+37億円→2011年度▲3億円) 特別損益: 投資有価証券評価損など</p>		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後 注:金額は億円未満四捨五入

セルフメディケーション事業：新製品



<2011年度：新製品の見通し>

<上期>

リポビタンD8

リポビタンゴールドN

アルフェ エフィーアップ

など

<下期>

(通販)

大正グルコサミン

コンドロイチン&コラーゲン

リアップリジェンヌ

胃腸薬シリーズ

リビタシリーズ

(生活習慣病対応)

など

赤文字：発売済みの製品

医療用医薬品：新薬パイプライン(1)



国内

今回の変更点：TS-071、TT-063がフェーズ3に移行

(2011年10月31日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ3			
CT-064* (注射)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症(フェーズ2/3)	中外製薬共同	ロシュ
TS-071** (経口)	<u>SGLT2阻害作用</u> 1型糖尿病、2型糖尿病	自社	大正製薬
TT-063 (外用)	<u>エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤</u> 変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン

* CT-064: 中外製薬における開発コードはRG484

**TS-071

国際一般名：ルセオグリフロジン(字訳)

医療用医薬品：新薬パイプライン(2)



国内(続き)

(2011年10月31日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2			
CT-064* (経口)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
NT-702 (経口)	<u>気管支拡張作用、細胞浸潤抑制作用</u> 気管支喘息	日産化学共同	日産化学
NT-702 (経口)	<u>血管拡張作用、血小板凝集抑制作用</u> 閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
パルクス (注射)	<u>プロスタグランジンE1製剤</u> 腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 (適応追加)	自社	大正製薬/ 田辺三菱製薬

* CT-064: 中外製薬における開発コードはRG484

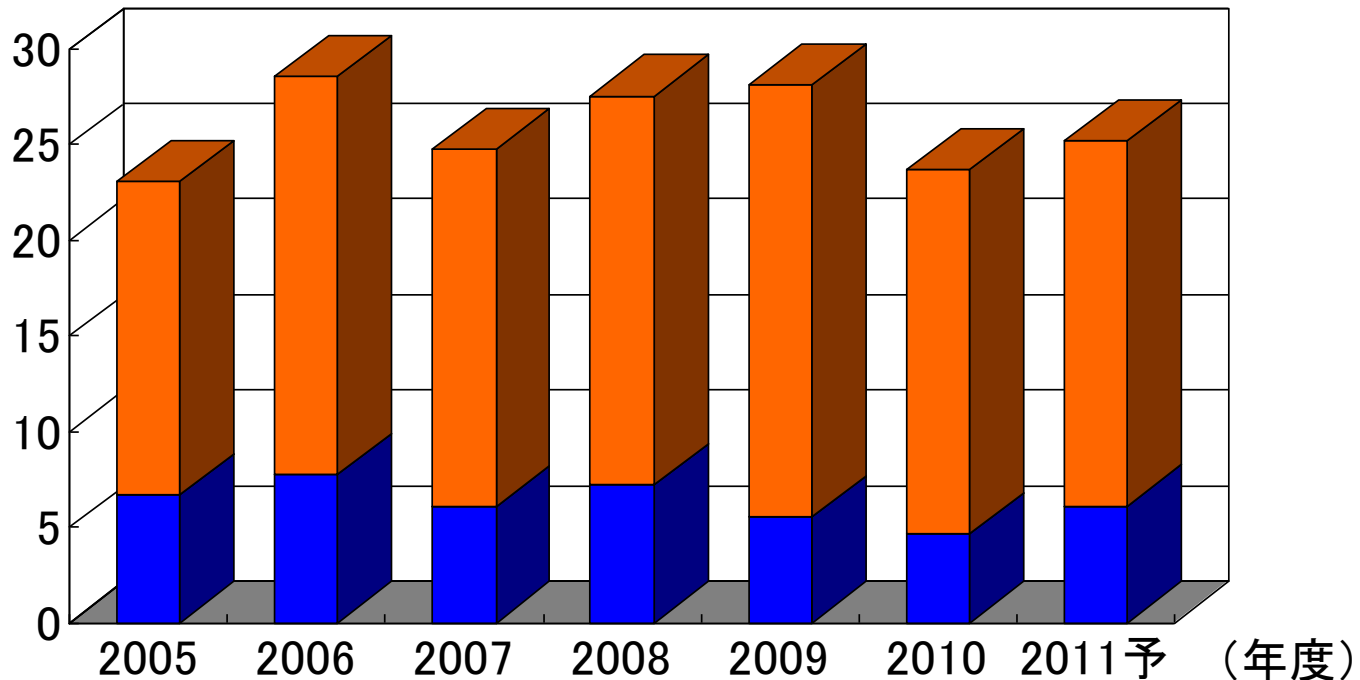
研究開発費の動向



2011年度2Q累計実績:114億円(前年同期比+14億円)

2011年度計画:250億円(同+13億円)に下方修正

(十億円) ■セルフメディケーション ■医薬



株主還元



- 配当

- 2011年度中間配当は12円／株
(旧大正製薬株式)
- 2011年度期末配当は50円／株を予定
(→年間配当金はHD株式に換算し、90円／株)
- 配当方針(10月3日付リリースにて発表)
 - 各期の連結業績に概ね対応することとし、特別損益を除いた当該期純利益の30%を配当性向の目途とする
 - 安定的且つ高水準の配当と内部留保充実の方針を維持しつつ、配当性向が30%を超えるような場合にも、特段の事情がない限り、1株当たり90円の年間配当を維持する予定